

元クレイジー・キャッツの名ジャズ・ベーシスト！ 犬塚 弘

現在は俳優として活躍し、日本が誇る偉大なバンド“クレイジー・キャッツ”のメンバーとしても有名だが、元々はプロのジャズ・ベーシストだった渋くダンディな犬塚さん。翌日に3月に亡くなった植木等さんを偲ぶ「夢をありがとう さよならの会」を控えた中、懐かしい写真と共に貴重なお話を語ってくれた。

(2007年4月26日「カフェ・アンセニュー・ダンゲル」にて)

取材 & 文：加瀬正之



渋くダンディな犬塚さん

“Mr. Bassman!”

★ジャズ・ベーシスト犬塚弘誕生！

海外生活が長く、終戦後 GHQ からの要請で東京の (旧) フェアモント・ホテルの総支配人に任命されたお父さんの教育は「20歳になったら、泥棒や殺人以外だったら汲取り屋でもいいから働いて母親に生活費を入れること」だったそうだ。3歳の時にハーモニカを持たされ、最初に覚えたのは英国国歌。小学3年頃からジャズのレコードを聴いていた犬塚さん。学校卒業後に仕事に就くも長続きせず、家にあったギターを持ち出して友人とワイヤーン・バンドを作り、当時は歌も歌っていたそうだ。そのうち「お前はクワイが高いからベースを弾け！」の一言でベースに転向。銀座のクラブのオーディションに合格し専属バンドに所属するも、同じ時期に実兄が作ったワイヤーン・バンド「グリーン・グラス・キャップ・ボーイズ」に引っ張られることに。演奏が難しいとされるベース (コントラバス) だったが、物事を基礎から極めていくことが好きという性格から、日響 (日本交響楽団) の先生を紹介してもらい個人レッスンに通う日々。そうして基礎から習っているうちに、ジャズ・ミュージシャン達の間で「弓でベース・ソグが弾ける奴がいるぞ！」と話題になり、ジャズ・バンドから声がかかった。歌手の後藤芳子等が在籍していたジャズ・バンド「エマノン (Emanon)」(＝「No Name」をひっくり返して名付けたられた) に加入。この瞬間にジャズ・ベーシスト犬塚弘が誕生した！

★クレイジー・キャッツ結成秘話！

「エマノン」での活動2年後またスカウトされ、その都度バンドのランクも上がっていた。一時はあの秋吉敏子 (p) とトリオを組んでアメリカン・クラブでモダン・ジャズを演奏していたという。そして、今度はポップ・ミュージシャンが在籍し、「スターダグ」を作曲した猿原真鳥のバンド「デューク・セブテット」にスカウトされ、銀座のナイトクラブに出演。だが、日夜難解なジャズを演奏する中で、徐々に「音楽ってもっと楽しいものじゃないか」という疑問が沸いてきたという。そして、楽屋の一室で運命的な出会いを果たす。色が真っ黒くて、面白い話ばかりする男が2-3日おきに楽屋に遊びに来ていた。友人に「野々山君だ」と紹介されたその男こそ、後に結成するクレイジー・キャッツのリーダー、ハナ肇さんだった。在籍していたバンドがだめになり暇つぶしに来ていたハナ肇さんだったが、ある時、「自分たちも楽しくて、お客も笑わせて、そんな楽しいバンド作らないか？」と犬塚さんを誘ったという。ちょうど難解なジャズに疑問を抱いていた時期でもあった犬塚さん面白そうに感じたそうだ。また、当時売っていた「フランク・ホルンビント・スリム・カズ」から、「昔バンドボーイやっていた面白いやつ (＝植木等さん) 、「さよならの会」もあって、トロンボーンをやっていた面白いやつ (＝谷倉さん) の2人を引っ張ろうと企んでいたハナさんはその計画を実行に移し、まず谷倉さんの引き抜きを成功させ、その約2ヶ月後に植木さんも引き抜かれた。その際、「友達のバンドに入るから辞めろ」という植木さんに対し、「仕事をさせないようにしてやる！」と言ったフランクキー一本に、あの植木さんが「冗談じゃねえ！俺が行きたいんだからいいじゃねえか！」と言いつつ放ったそうで、植木さんの若きミュージシャン時代の貴重なエピソードだ。それまでも「毎週垣田郎 (sax) 等引っ張っていたことがあるというが、ほとんどのメンバーはジャズに不笑いの要素を取り入れることに不満を抱き脱退。残るのは自分とハナさんと犬塚さんだったという。また、犬塚さんと植木さんの初顔合わせの時の話が面白い。場所は新橋の新田ビルにあった事務所と称の頃だったという。早急に到着した犬塚さんが外で待っているところ、一人の男が歩いて来た。そして、開口一番「俺、植木等！」と言いつつ。犬塚さんも「よろしく！」と言った途端、「タバねえ」と語り出したそうだ。「タバねえ、ラジオで落語を聴いたら面白くてさ！」と挨拶もろくすっぽに喋り出す植木さん。「へえっ」と犬塚さんが返すなり、頭からオチまでその落語を語り続けたという。黙って聞いているうちに、犬塚さんの後頭部はビルの壁に付き、ツバキを飛ばしながら語り続ける植木さん。知らぬ間にキスでもしそうな距離まで2人の顔が接近していたそうだ (笑)。お世辞で「面白いねえ」と言いながらも、「凄い人だなあ」と植木さんの迫力と説得力に驚いたそうだ。ちなみに谷倉さんは普段の行動から可笑しいらしい。

★クレイジー・キャッツ時代

谷さんと植木さん加入後も3年ほどは全く売れず、電車賃にも困るほどで質屋通いも続いたそうだ。「バラバラにならなかったのは、メンバー全員が中流階級のサラリーマン家庭 (植木さんの父親はお坊さん)、俗に言うボンボ、育ちでお金に頼着がなく、バンドやっていけばいいや」という思いが幸しいのだからという。そして、日本の各地にあった米軍キャンプで演奏する日々。元々「キューバン・キャッツ」と名乗っていたが、この時期に一連のギャグから「You are crazy!」と掛け声がかかり「クレイジー・キャッツ」に改名したことは有名だ。また、当時 GI として日本に駐留し、「うますん」の愛称で親しまれたジャズ・ピアニストのハンブトン・ホースは多くの日本人ジャズ・ミュージシャンに影響を与えたそうだ。そして、大きな転機が訪れる。昭和34年4月1日のフジテレビ開局に合わせて、テレビの仕事が舞い込んできた。初めはセリフもあることに戸惑ったそうだ。が、ちゃんとした台本もなく、ガリ版で刷られた進行やセリフをメンバーで覚えたという。この時の作家は、後に東京都知事になる青島幸男だ。本当の役者じゃないから喋ることに責任感もなくて、ハナハナに我慢しながらも気楽にならしていたそうだ。そんな環境に慣れたと進行にないことまでやり出し、放送後にディレクターから「公共の場を使って遊んだら何をやっているんだ！」と怒られ、2回もメンバー全員でフジテレビの廊下立たされたこともあるという (笑)。だが、そのいい加減さを作家たちが面白がって、やがてテレビの世界で黄金時代を築くことになる。

★事務所を離れ、演劇・役者の世界へ

テレビや映画界でクレイジーのメンバーとして忙しい日々を送っていた犬塚さんが、時代の波やテレビの発達に連れて異なってくる要求の変化に伴い、心の中に変化が生じてきたという。また、誰とも懐けた「日劇」の舞台のこと。犬塚さんがベース一本で舞台からエレベーター一式の装置でせり上がり、ピンポイントに照らされるながらベースソロを弾きだし、後から壮大なオーケストラが鳴り出すというステージの最中、犬塚さん悲劇が起こる。舞台の音が聞けないのに装置を上げてしまいうというスタッフのミスで、愛用のベースが大破してしまったのだ…。その楽器は最終段階で、当時で60万円 (!) ほどの価格で神田にあった小さな楽器屋で作られたものだったそうだ。ひび割れを補修しながら大切に使っていた本当に良い音のする楽器だったそうで、その事故もベースに対する情熱を失う要因となり、友人、徐々にお笑いしていた活動が自分の性格に合わないことを感じ始めたという。クレイジー結成当初、普段から面白いハナさん、植木さん、谷さん等を見て、犬塚さんはハナさんが「俺は前面に出ないで、女役に徹するから」と伝えていたそうだ。そして、ある時役者としてドラマの仕事が入って来て、リハーサルを繰り返す過程で、だんだんと気持ちが高揚する自分気付いたそうだ。そして、演劇の仕事をごさうそうに演出家への評判も広がり、役者の仕事が増えつつあった。だが、テレビや映画の仕事とはギャラの面でも大きく異なる



山屋清 (ds) リーダーの「山屋清バンド」在籍時の貴重なショット

る演劇の仕事はビジネス面で魅力がなく、その仕事をやりたい犬塚さんとあくまでも音楽事務所であった事務所サとの間に溝が生まれ、クレイジーのメンバーもそれぞれバラバラに活動する機会が増えていた時期とも重なり、また、十分にお返しもできなかったらという思いもあって、事務所を離れる決意をした犬塚さん。でも、クレイジーの仕事に関しては必ず駆けつけることを約束したそう。そして、植木さんは犬塚さんが事務所を離れた後も、ほとんど全ての舞台を見に訪れ、後できちんと演技に対する評価や意見をしてくれたという。

★ジャズ・ベースマン魂!

クレイジーのメンバー全員が揃った最後の共演作となった市川準監督の映画『会社物語』(1988年)でジャズの演奏シーンがあるということで、3~4ヶ月特訓を重ねた犬塚さん。その後もジャズを聴きに行くとか無理やりステージに上げられ一曲弾いてしまうこともしばしばあったそうだが、昨年4月にリリースされた「YUMING」として松任谷由実と共演したシングル『Still Crazy For You』でも、長いブルックのため乗り気しないながらもスタジオに入った犬塚さんだったが、リハーサルを重ねるうちに不思議なことが起こった。10回目くらいのリハーサルの時に、足つま先からお湯が沸くような感覚が湧き起こり、徐々に膝から上半身、最後は指先まで浸透し、突然指が驚くほどよどみ始めたという。その瞬間、現役の頃の感覚に戻ったそう。その時はスタジオを出た後も興奮が冷めず、そのまま「ブルーノート東京」で生演奏を聴いて興奮を冷ましたそう。『昔とった犬塚だなあ』(笑)とおどけてみせる犬塚さんだが、あんなに燃える瞬間は役者の仕事ではなかったという。やはり根がミュージシャンなのだ。そんな犬塚さんのジャズ・ベースのアイドルはレイ・ブ라운。1953年ノーマン・グランツのバンドで初来日の際に羽田空港に迎えに行き、2回目の来日の際にはレイ・ブ라운が犬塚さんに自分の教則本を持ってきてくれたそう。また、MJQのパーシー・ヒースも好きで、パーシーとは手の大きさが同じだったという。好きなアルバムは、レイ・ブ라운在籍時のオスカー・ウィットソンのトリオのアルバムや本場のジャズ・オケストラも。また、カントリー・ウェスタンのバンドでベースistであった後輩ザ・ドリフターズのいかりや長介さんから、「先輩、ベース教えてください」と頼み込まれたことがあったそうだが、「気分を遣はばいいんだよ、気分気分!」と上手く濁したそうで、他人に偉そうに教えたりするのは好きじゃないという犬塚さんの何とも微笑ましいエピソードだ。現在でも、



人気テレビ番組『おとなの漫画』1000 回記念収録時の貴重な写真

都内のジャズ・クラブにはよく足を運んでいるという。

★盟友、植木等さんのこと&クレイジー・キャッツ秘話

犬塚さんが初めて「ジャズ・ギタリスト植木等」を見たのは、「フランクキー埠とシティ・スリッカーズ」在籍時の浅草国際劇場でのステージ。フランクキーさんの指示でギターも持たずにステージに出てきた植木さん。「歌でも歌うのかなあ」と犬塚さんが見ていると、メロディーもめっちゃくちゃでテララメの歌詞を歌い始めたという。そして、最後に「モオー」と叫んでステージを降り、客席を笑いの渦に巻き込んだそう。それを見た犬塚さんは「面白い奴だなあ〜、植木等ってこういう人なんだ」と感心したという。ギタリストとしての印象よりもそのインパクトに圧倒されたようだ。また、意外にもクレイジーのメンバーはプライベートではほとんど付き合いがなかったそうだが、楽屋ではいつも冗談ばかり言い合って本当に仲が良かったそう。また、植木さん、犬塚さんと谷登さんの3人はお酒を一滴も飲まず、植木さんはテレビで見ると対照的に、堅く本当に真面目な人で「こう言っちゃなんだけど、普段は全然面白くないんだよ(笑)」と語る犬塚さん。クレイジー時代の営業では犬塚さんがメンバー全員のサインを約1000枚分書いたこともあったという。クレイジーの海外でのエピソードとしては、ハワイにロケで滞在中にメンバー全員でジャズの生演奏を聴きに行き、出演バンドの休養中に演奏する機会を得て、自慢のギャグを入れて演奏のや客席がバカ受けし、それを見た支配人がすっ飛んで「そのバンドを追い出したら、1年間契約してれ!」と真剣に頼み込んで来たそう。勿論、丁重に断ったそうだが、クレイジーのパワーを感じさせるエピソード。

★俳優、犬塚弘

現在撮影中の長嶋一茂企画・主演で、郵便局員をテーマにした映画『ポストマン』(来年初春公開)には、谷登さんとも友人役で出演するという。あの瀟灑清演じる「寅さん」でお馴染みの映画『男はつらいよ シリーズ』にも、タクシー運転手や寅さんと同級生の棟梁役などで出演している犬塚さんだが、名優たちとの共演は本当に勉強になったという。「真面目にやらず、ふざけてやれ」という植木さんのアドバイスその他、「お前のセリフにはリズムがある」と言われることも良くあったそう。78歳になった現在もジャズマンの佇まいを感じさせる深くダンディな犬塚さん。一晩でもいい、「ジャズ・ベースist犬塚弘!」復活のステージを見てみたい!

大瀧詠一責任編集のスーパー・ベスト盤!



クレイジー・キャッツ/スーパー・テラクス
ハナ肇とクレイジー・キャッツ
TOCT-24486 / 87
¥3,500 (tax in)

YUMINGと共演した20年ぶりの新曲!



Still Crazy For You (通常盤)
クレイジーキャッツ & YUMING
TOCT-4983
¥1,000 (tax in)

The Walker's 読者(1名)の方に抽選で犬塚弘さんのサイン入りCDをプレゼント!

★送付先住所、氏名、電話番号、下記アンケートに答えて、件名「犬塚弘さんプレゼント係」と明記の上、メールアドレス (thewalker@k07.itscom.net) 宛てにお送り下さい。
【アンケート】①性別 ②年齢 ③職業
④ The Walker's を GET した場所
⑤ 犬塚弘さんインタビュー記事の感想
⑥ The Walker's の感想
⑦ 今後取り上げて欲しいアーティスト
☆ 当選は発送にて代えさせていただきます。

